

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	中田 愛	所 属	U18 カテゴリー					
大会名	京王 Jr.ウインターcup 2025-26 2025 年度第 6 回全国 U15 バスケットボール選手権大会							
期間	2026年 1月 4 日 ~ 8 日 (参加日: 1月 4 ~ 6 日)							
会場	京王アリーナ TOKYO							
スケジュール								
期 日	内 容	場 所						
1月 4 日	女子 1 回戦	京王アリーナ TOKYO						
1月 5 日	女子 2 回戦	京王アリーナ TOKYO						
1月 6 日	女子準々決勝	京王アリーナ TOKYO						
担当試合①								
期 日	1月 4 日 (日) 1回戦							
対戦カード	Club D (青森) vs トライアンズ SW (和歌山)							
クルー	CC : 奥川 貴久氏 (三重) U1 : 鈴木 最結氏 (東京) U2 : 中田 愛							
ミーティング内容	審判主任 : 野口 祐大氏 (埼玉)							
<p>▶PGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカニクスの確認、基本的にはエッジ下はリードプライマリーだが、ペイントエリア内にアクティブなマッチアップがあった場合のリードの示し方について ・マンツーマンペナルティーについての確認 <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クルーで協力して 1 試合を進めることができた。 ・後半、プロテクトシューターと思われる現象に笛が入らなかったことについて、プライマリー以外で気づきがあったがコールに繋がらなかったことがあった→L : T と目が合い T がコールすると思った。C : 現象には気づいていたが自分のプライマリーではないから越えてまで行こうと思わなかった。→ 1 試合を通して和歌山のチームは 3 P を簡単に打つチームでその情報を理解した上で、現象に備えておくべきだった。 ・1 試合を通して、リバウンドに対するファウルの基準があいまいになってしまった。特にトライアンズ SW のボックスアウトが押しすぎてしまい、オフェンスに影響が出てしまっていたものをコールに繋げることができなかつたことをクルーで反省した。 ・個人的な反省として、チームの特徴やキープレイヤーの把握、中学生の影響の度合いについてもっと理解し、判定に繋げたかった。 								
担当試合②								
期 日	1月 5 日 (月) 2回戦							
対戦カード	大分 FIERCE BEAST U-15 (大分) vs 丸亀市立西中学校 (香川)							
クルー	CC : 野口 祐子氏 (千葉) U1 : 藤田 沙織氏 (山口) U2 : 中田 愛							
ミーティング内容	審判主任 : 六角 亜沙美氏 (東京)							
<p>▶ゲーム前の PGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム情報の共有→県内の Jr.ウインターcup 予選の結果 (大分) 、前日のスカウティング (香川) の共有。 ・ベーシックなメカニクスの徹底、エッジ下は基本的にはリードがみにいくこと ・チーム情報から、ローテーションを始めるタイミングや状況の確認と共有 ・マンツーマンペナルティについて ・TO 管理 								

▶ゲーム後のミーティング

- ・クルーで協力してゲームを進めたものの、チームにはあまり理解してもらえない部分があった。
- ・チームが不信感を持ってしまった原因として、プライマリーの判定が薄かったこと、鳴らしたタイミングが良くなかったことがあげられた。
- ・判定について疑問を持っているコーチへのコミュニケーションの取り方、タイミングについて
- ・個人的な反省として、ボール運びの際 C サイド側で現象が起きた時に笛を鳴らせなかったこと→現象が起きた時のポジションが悪かった（何となくフロントコートに入ってしまっており、現象が起きた時に確認ができていない）
- ・どんなカテゴリーでも突発的に現象が起こることがあるため常にいいポジションを探し、常に吹く準備をしておく。

担当試合③

期　　日	1月 6 日 (火)
対戦カード	四日市メリノール学院中学校 (三重) vs ボンズ茨城 (茨城)
ク　ル　ー	CC : 岸本 祥也氏 (本部) U1 : 角田 穂乃香 (宮城) U2 : 中田 愛

ミーティング内容

▶ゲーム前の PGC

- ・チーム情報の共有（この日はダブルヘッダーで途中からだが、クルーの方と現地で一緒に試合をみた）
- ・ベーシックなメカニクスについて
- ・自分がいま課題としていることの共有
- ・中学生がこれまで積み上げてきたものを理解して、コールに繋げられるように

▶ゲーム後のミーティング

- ・クルーで一貫した判定を積み重ねることができた。必要な場面とタイミングで笛が入っていた。
- ・茨城のベンチ管理を前半のうちに共有していたが、コーチとコミュニケーションをとるところまでは行けなかった。
- ・個人的には、2日間の反省を踏まえてゲームに臨むことができた。判定に関してはしっかり表現することができたゲームだった。
- ・ゲームの入りから自分のプライマリーでの判定を重ねていたが、大事な局面で、カバーにきた DF の捉えができておらず、クルーに助けられた。
- ・C サイドエントリーでのポジションどりが悪く、攻守がかわった時に出だしが遅くなってしまった。

全体の感想

この度は全国 U15 バスケットボール選手権大会へ派遣していただき有難うございました。ハンドリングの技術が高いチーム、スペースをみつけて自由にパスを出せるチーム、3P を打ってからオフェンスがはじまるチーム、DF の強度が高く、全員で足を動かして粘るチームなど、たくさんのバスケットボールに触れる事ができた3日間でした。コーチ・選手がこの大会に掛けている思いや、保護者の子どもを熱く応援する思いなど、現地でしか感じられない部分にもたくさん触れることができました。その思いに触れたたびに、審判としてゲームに関わる自分に今できる最大限は何かを考え、コートに立ちました。現状の自分が出せるものは、出してこれたと思いますが、たくさんの課題も明確になりました。また、今大会上級の方々と一緒に試合を担当させていただく中で、特にゲームのポイントになる部分への捉え方について自分との違いを実感する事が多くありました。クルーが何を考え、どう捉えたのか、表現できたかどうかなどゲームでもっと感じられるよう努力を続けるとともに、ここで得た経験を必ず今後の活動に活かしていきます。

最後になりますが、年末年始からご準備いただき、大会期間も長期間朝早くから夜遅くまで大会運営をしていただきました東京都バスケットボール協会の皆様、審判員の皆様、担当クルーや TO 役員、そのほか大会に関わるすべての皆様に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。